



ニュースを教育・研究の視点から発信する OTEMON VIEW

# 人生最終段階の倫理と法。 —あなたは尊厳死・安楽死をどう考えますか？

## 追手門学院が OTEMON VIEW を開設

学校法人追手門学院(大阪市中央区、理事長：田口順一)は大学公式 HP に特設サイト「OTEMON VIEW」を開設しています。

<https://newsmedia.otemon.ac.jp/>

## OTEMON VIEW とは

「ニュースの面白さは、見方次第。」をコンセプトに、日々移り変わる世の中の出来事を、追手門学院大学の教員らが教育・研究成果など専門的知見に基づいて読み解きます。



2021.09.02 地域・観光  
死海文書とは何か。日本語訳プロジェクトに携わる研究者が明かす、その全貌  
56020Views  
OTEMON VIEW編集部



2022.10.07 社会と暮らし  
男女平等ランキングはなぜ低い？日本のジェンダーギャップ解消に求められる家族観・政策の視点  
32914Views  
OTEMON VIEW編集部



2021.03.05 社会と暮らし  
「半沢直樹」になれない現代人へ。「感情資本」は社会を生き抜くヒント。感情のコントロールとは。  
31705Views  
OTEMON VIEW編集部



2020.08.24 ことごとからだ  
すぐそばにある薬害問題。「薬害根絶デー」に考える薬害被害について  
21731Views  
OTEMON VIEW編集部

## OTEMON VIEW 人気記事ランキング

## ニュースを教育・研究の視点から

医療が大きく進歩した現代、人生の最終段階をどう過ごすかを検討することは身近な話題のひとつです。患者側が「過剰な医療を受けず、自然に最期を迎えたい」と願うのも考えの一つですが、現在の日本では、医師が患者の死期を早める措置をとる尊厳死・安楽死は合法化されていません。人生の最期について法はどこまで踏み込めるのでしょうか？法哲学者の法学部 服部高宏教授と尊厳死・安楽死をめぐる日本の今を考えます。

(以下は主なポイント)

### 私たちの社会のものさしである“法”と、人がつながる“ケア”

○法の限界？「法」で規定できない「ケア」とは  
**法的視点から考える終末期医療**

○尊厳死と安楽死の違い

○医療の現場でルール化が求められてきた治療行為の中止とは？

### 終末期医療におけるガイドライン策定と、人々の意識の変化

○性急な「法制化は不要かも？」法哲学者の考え

○終活とリビング・ウィル。尊重されるべき本人の意思決定

### 終末期医療における患者の自己決定。諸外国における制度化のかたち

○「個人の死」のとらえ方、日本と外国では異なる？

記事本体：<https://newsmedia.otemon.ac.jp/3133/>

人生最終段階の倫理と法。—あなたは尊厳死・安楽死をどう考えますか？



服部 高宏 (はっとり たかひろ)  
追手門学院大学 法学部 法律学科  
教授  
専門：法哲学、ドイツ法

ガイドライン ケア 人生会議 医療 安楽死 尊厳死 法哲学  
終末期医療 終活 自己決定

記事イメージ

この資料の配付先：大阪科学・大学記者クラブ、北摂記者クラブ等

【発行元】

追手門学院 広報課 TEL：072-641-9590 仲西・織田